

退院した俺は、叶さんと浴衣で花火大会デートに来ていた。
花火の光に照らされた叶さんはめっちゃくちや可愛い。

しかし浴衣とは、初めてまじまじと見るが、
その…生地が随分と薄いものなんだな。
そういえば、下着のラインが出ないように、
下には何も着ないと聞いた事がある…。
今日の叶さんはどうなのだろうか…。



「叶さん…あの、浴衣の下ってどうなってるんですか？」

「浴衣の下…？」

「その、下着とか…」

「そ、それどういう意味ですか!？」

「すみません!!つけてますよねブラとかパンツとか…ちゃんと…」

「…ちよつとコツチに…」

ん
かああっ…



叶さんは、人目につかない所まで来ると、
上をはだけて、可愛い乳首を見せてくれた。

「う、うわ...」

「上はつけてませんよ...」

「じ、下は...?」

俺がそう聞くと、叶さんはゆっくり浴衣をズラし始めた...。

ハラッ...

〃〃

〃〃



「残念でした!」

「あ、あはは!! そうですね! いくらなんでも下は... はは...」
パンツは穿いていた。

ズーッ



「あの叶さん、俺、
叶さんのパンツ見て勃起しちゃったんですけど…。」
「えっ…」
「ここ全然人目につかないし、暗いし…ちょっとだけ…」
「そ、そんな…ダメ…ですよ…」
「でも叶さんも、パンツにシミ作っちゃってるし…」
「これは…」



いっ♡

「これはなんですか…? どういう事なんですか…?」
「そ、それは…」
「こんなに我慢汁出して、叶さんのおちんちんHしたがつてますよ。」
「言わないでください…!」



「勃起しちゃいましたね…♡
こんなに可愛くて女の子みたいなのに、
叶さんは立派な男の子なんですよね♡
俺も今すげー勃起してて、これホント辛いですよね。
早く気持ち良くなりたいんですけど、叶さんはどうですか？」
「うっ…、早く気持ちよくなりたいですう…♡」



「あっ♡あっ♡」
「はあはあ、叶さん、すごいっ、締まるよ…っ♡」
「た、ただくん…っ♡待って、これじゃ…」
誰かに見られたら…っ♡」

はあ

はあ

はあ

はあ

「いいじゃないですか♡気持ちいいんだから♡
叶さんだってさっきからセンサー止まらないじゃないですか♡」
「違う！違う！早くイって、終わらせないと…っ♡」

しっ♡しっ♡しっ♡しっ♡しっ♡しっ♡

ずちゅっ

ずちゅっ

ほちゅっ

ほちゅっ

っ

っ

っ

っ

っ

っ

っ

っ

っ

「ああ俺いっぱい出そうです♡
叶さんのオマンコとうなじの汗のにおい、
たまらないです…♡うう…♡」
「やだっ…ペンタイ…!」

はあ

はあ

はあ

はあ

ちゅこ

ちゅこ

ちゅこ

ちゅこ

ちゅこ

ちゅこ

ちゅこ

ちゅこ

ちゅこ

ちゅこ

ちゅこ

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

A full-page illustration from a Japanese manga depicting a young woman with short dark hair, wearing a blue patterned kimono, standing outdoors at night. She has her eyes closed and a pained expression, clutching her lower abdomen where a large, bloody wound is visible. The scene is set against a background of trees and traditional Japanese lanterns. Large sound effects like "ビュッ" and "ガッ" are written around the character, emphasizing the impact of the attack.

「はあはあ、ああ…すご、いっぱい出た…♡
叶さんのナカにいっぱい出したよ、俺…♡」
「あっ…♡あ…♡僕も…いっぱい…出ちゃった…♡」



一発抜いた俺たちは楽しく屋台巡りをしていたのだが、俺はやバイ事に気が付いてしまった。



(あれ...？叶さんのお尻ってこんなにエッチだったっけ...？)

周囲から性的な目で見られているに違いない...。
俺は危機感を感じ、叶さんのエッチなお尻を隠す事に専念した。







「ちょ、ちよつと多田くん…」
「はい…?」
「あの…僕のお尻に…当たってるんですけど…」
「…え!」
さっき抜いたばかりなのに、俺はまた勃ってしまった。





いよいよ盛りがついてしまい、
居ても立っても居られなくなったので、
俺たちは人っ気の無い神社の裏に急いだ。
浴衣の裾を上げると、やはり叶さんもビンビンだった。
俺は勢いよくじゃぶりついた。
「ああんっ♡」



さつき一生懸命扱いたからだろうか、
亀頭がパンパンに膨れあがって、
かなり敏感になっていいるようだ。
舌を絡めるとビクビクと跳ねるように感じている。
「あっ♡ダメえ♡それ、やあ♡」
足をガクガクさせて、立っているのが辛そうだ。

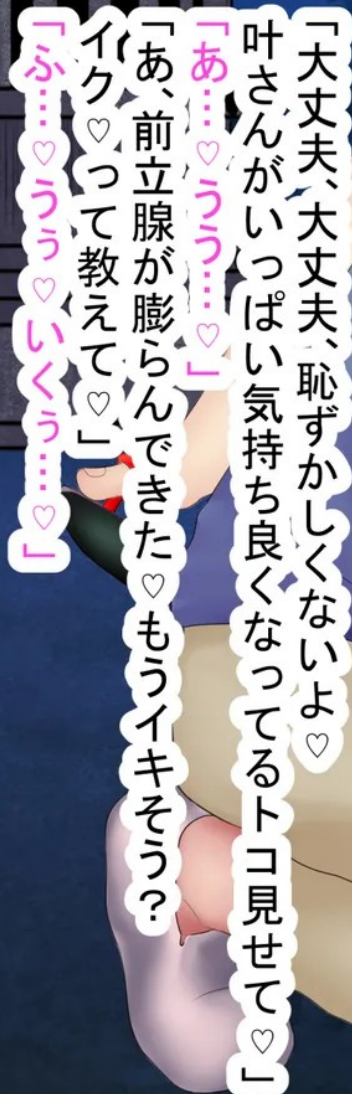


「うあ……♡」

「やだ……恥ずかしい……」

「だってお尻…弄られると…おちんちん勝手に…動く…んだもん…」

「は、恥ずかしい……からあ……♡」







「はあ、はあ♡」
「手マンで女の子みたいにいつちやったね♡」
「あ…♡そんなこと…言わないで…♡」
「俺も早く叶さんのオマンコでめちやくちや気持ち良くなりた…♡」
「うん…♡」

「こんな所…入っていいのかな…」
「大丈夫ですって…ちゃんとお賽銭入れたし…五千円も！」
「そ、そういう問題じゃ…」
「叶さんごめん…！は、早く…っ！」



「あ…さきつぽ…入って…きたあ…♡」
「うう、お尻の穴が吸い付いてきますよ…!」

♡ はあ、
はあ はあ、
♡

はあ♡
はあ、
はあ♡



ふゐる

ゝゝ

ふゐる
ゝゝ

ズ
ブ

ブ

ブブ…



「あ…全部入ったあ…おつきい…♡
多田くん…僕の…ナカ、気持ちいい…？
「う、うん…やばい、すぐ出そう…っ！」

はっ♡

はっ

ふっ

ふっ

ふっ



「叶さん、引き続き女の子イキしてみてください：♡」
「な、なに…、それ…」
「男の子のおちんちんには触らないで、女の子みたいに
おっぱいとオマンコでイッてるところが見たいです♡」
「そ、そんな…あ♡」



俺は腰を上下に動かしながら、
両手を伸ばして叶さんの乳首を
「ひゃあ！」
抓り上げた。





「ああ、すごいね…コリコリだ…♡」

「あ…♡ダメ♡…コリコリしちゃ…」

乳首をコリコリすると、

叶さんのペニスからカウパーがあふれ出してきた。

びくっ

びくっ

くち
くち
くち

くち
くち
くち

びく
びく



びくっ

びくんっ

「お…おまんこ…イクう…」
「うっ…」

ぎゅあっ

ぎゅあっ

ん

ん

っ!!

いっ!!
ひゅるるるっ!!

「はあ、はあ♡お腹いっぱい…♡」
「ああ…すごい、めちやくちや、良かった…、
女の子イキする叶さんすごくかわいかったです…でも…」
「…でも…？」



「やっぱり男の子だから、コッチでも気持ち良くなってください♡」
「ああー！」



「ほらおちんちん気持ち良いでしょ？
オマン」とどっちが気持ち良い？」
「あああああ♡気持ち良い♡どっちも良い♡」
「それじゃあ抜かずの二発目というか♡」



「ああ、やっぱり叶さんは男の子なんだ♡
おちんちんシコシコされてこんなに悦んで♡」
「き、気持ち良いっ♡も、イク♡イキたいっ……!!」
「俺もイキそう♡」

「うん♡いいよ……っ♡きてっ♡僕の中にいっぱい出してっ♡」





「はあはあ、ああ…すい、中から出てきてる…♡
これ、ちゃんとかき出さないと…、外歩けませんね♡」
「え…っ」



「ちよつと…、やあ…」
「わ♡すごいエッチな穴…♡ほらちよつとイキんで♡」
「えっ、そんな…、やだよ…っ」
「でも歩いてる時に出てきちゃったら恥ずかしいでしょ？」
「うう…」



「…っん」
「ああ…♡どんどん出てくる…」
「あんまり見ちゃダメ…」



「はあ、はあ♡」
「うん、キレイになった♡頑張ったね♡」
「う、うん…♡」

この後俺たちはデートを再開したが、
例によって何度も発情してやりまくった。







ん
かああっ...







心も大い







はあ

はあ

はあ

はあ

しっしょ しっしょ
しっしょ しっしょ

すちゅ
すちゅ

すちゅ
すちゅ

おちゅ
おちゅ

おちゅ
おちゅ

ん

ん

ん

ん

ん

ん

おちゅ
おちゅ



はあ

はあ

はあ

はあ

ちゅこ

ちゅこ

ちゅこ

ちゅこ

ちゅこ

ちゅこ

ちゅこ

ちゅこ

ちゅこ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

が

が

が

が

が



ぴゅっ♡

ビュ

ビュ

ビュ

ビュ

ビュ

ビュ!

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ







ぴちっ

うーッ
ッ

ひ
ちん























はあ、
はあ、
はあ、

はあ♡



はあ、
はあ♡

ふゐ

？！

ふゐ

？！

ズ
ズ

はやく

ズ
ズ

ズズ...







はっ♡

はっ♡

きゅん♡♡





ビクッ

ビクッ

リッ
リッ
リッ

リッ
リッ
リッ

びく
びく











ビクッ
〜
〜
〜
〜

ちゅっ♡
ちゅっ♡
♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅん♡













ゴボ

オッ!!

ぴゅ,

ぴゅ,



























































































